

出題のねらい

公募推薦入試は現代国語のみが出題されます。文学的文章と論理的文章の二題です。極端に難解な問題文や、必要以上に紛らわしい選択肢問題などが出ることはありません。求められるのは、常識的で正確な読解力です。ただ、三十字から六十字程度の記述問題が必ず出題されることには注意してください。それから、以下でも繰り返すことになるでしょうが、漢字の正答率が合否を分けることがよくあります。しかし、極端に複雑な字が出題されることはありません。すべて常用漢字です。確実に正解できるように。

文学的文章は、フランスの作家ヴァレリー・ラルポーの「ローズ・ルルダン」から出題しました。すこし自分の感情を「こじらせた」感じの女の子が主人公です。彼女の独特の感性を読み取ることが大事です。論理的文章は、木越治「文学を「研究する」ということ」からの出題です。「ネバーエンディング・ストーリー」をもとに、大学で文学を学ぶ意義を説明した文章です。読みやすい文体ですが、それに流されず、論理のつながり、本文の主意を正確に読み取れるか、が問われます。



【解答】(50点)

問一	a 行儀 b 冗談 c 突然 d 襲 e 生意気	(2点×5)
問二	別の日のこ	(5点)
問三	エ	(4点)
問四	わたしの微笑みがなにを意味しているか見てとれ なかった	(5点)
問五	ア	(4点)
問六	ウ	(4点)
問七	イ	(4点)
問八	平静を装った表情ではいるが、心の中では涙を流 している悲しみ。	(6点)
問九	ア	(4点)
問十	ウ	(4点)

【解説】

問一 すべて常識的な常用漢字の書き取りです。日頃から簡単な問題集などで練習しておくことをおすすめします。80%ほどの正解率があれば、合格は難しくありません。今回のみなさんは60%くらいの正解率でした。

問二 主人公が先生に叱られるエピソードが二つ書かれています。一つめと二つめの境界が正解になるわけですね。これは簡単だったと思います。

問三 これはすこし難しかった。主人公は先生に軽い仕返しをして楽しんでいるようです。ですから、「イ」が正解に見えるかもしれませんが、これは、叱られたことの結果であって、原因ではありません。問題文全体を探す必要があります。すると、最後の方に「わたしは、じっとこらえた涙の味が好きでした」とあることに気が付きます。そして、「叱られるのが好きだったのはそのせいです」とはっきり書かれています。「エ」が正解ですね。

問四 主人公はいろいろなことを考えながら自分の態度を表しています。ところが先生はそれをまったく理解できずに怒り狂いました。それが「不当」なことですね。それに適当な言葉を文中から探せば、正解が見つかるでしょう。

問五 これも簡単だったようです。よくできていました。

問六 「証人」とは、「主人公が無実であることの証人」です。比較的些細な出来事について、二十年たっても無実を訴えるのですから、相手も主人公の無実を認めるしかないでしょう。それが「忌避できない」ということです。正解は「ウ」ですね。

問七 問題箇所の前部分を読むと、主人公は悲しみを消し去ろうとしています。後の部分を読むと、悲しみを保持しようとしています。前と後で逆のことを言ってますね。つまり、逆接の接続詞を選べば良いわけです。

問八 四十字を書く問題です。こういう問題を見ると、すぐあきらめて空白のままにしてしまう人がたくさんいる。もったいないことです。たしかに完璧に答えて6点を獲得するのは難しいかもしれない。けれど、減点されても3点を得られれば成功だ、と考えましょう。何か書けば、得点できる可能性は少なくありません。「あきらめたらそこで試合終了だよ」。さて、「仮面のような顔」とは何でしょう。それは、悲しみを押し隠している表情です。それがわかれば3点。「目から心臓に落ちていく」の「心臓」の意味するものは臓器ではなく「心」です。心の中で泣いているんですね。それがわかれば3点です。

問九 比喩の問題はしばしば出ます。選択肢の四種くらいは知っておきましょう。実際、よくできていました。

問十 文学史の問題は必ず出る、と思って間違いではありません。そして、いつも20%から30%くらいの正解率しかありません。でも、難しい問題が出題さ

公募制推薦入試／国語(前期 B日程)

れることは無いので、これも準備しておけばできるはずですが。白樺派と言えば、志賀直哉のほか、武者小路実篤、有島健郎くらいは知っておきましょう。



【解答】(50点)

問一	a 排除	b 得体	c 経緯	d 明瞭	
	e 批評				(2点×5)
問二	i オ	ii ウ	iii エ	iv イ	v ア
					(2点×5)
問三	ア				(3点)
問四	二重構造				(3点)
問五	イ				(3点)
問六	ア				(3点)
問七	想像力は文学にとって大切なものということ。				(5点)
問八	原文はほんのわずかししか読まないで、登場人物やおおよそのあらすじだけを知って読んだつもりになること。				(5点)
問九	ア×	イ○	ウ○	エ×	(2点×4)

【解説】

問一 漢字の書き取り問題。正答率は60%程度でした。

aは「排」を「廢」とする誤りがあったものの、bとともに比較的よくできていました。cは「敬意」とする誤り、また「経緯」の「緯」を「偉」「維」とする誤りが多く、こちらは正答率が30%程度となっています。eは「批」を「比」とする誤答がありましたが、80%程度の出来でした。漢字の書き取りでは常用漢字から出題しています。日常的に漢字を読むだけでなく、書く習慣をつけることが、習得の近道です。

問二 接続詞の問題です。iiiとivを反対にする回答が多かったです。iii「しかも」は強調して付け加えた文章の前につける接続詞です。接続詞の後ろに「さらに念が入っていることに」と、より強調する一文が付加されているところに注目してください。

問三 語句の置き換え。たいへんよくできていました。

問四 空欄補充問題。本文からの抜き出しですが、「基本構造」とする回答が目立ちました。空欄のすぐ前に「ケイイを丁寧に提示したのちに」「その本の中の世界がはじまる」とあるので、ここは「二重構造」が正解です。

問五 空欄補充問題。たいへんよくできていました。

問六 選択問題。おおむねよくできていましたが、イを選ぶ回答がありました。作者は文学を学習する上で「作品」と「読者」の関係に注目しなければならないと主張していることを踏まえて回答してください。

問七 指示語の抜き出し問題。正答率は10%程度でした。「不思議な存在を生み出したのはすべて想像力によるもの」とする回答が多かったのですが、元々の問いである「この映画はどのような点で「古典文学入門」の最初に見るのにふさわしいでしょうか？」への不適當な「感想」として「想像力は文学にとって大切なものだということ」を指示していることに気付いてほしいところです。

問八 内容説明問題。問題文に出てくる比喩的表現「新聞や週刊誌を読むような」「文学作品を「読む」ということ」をそのまま書いている回答が目立ちました。

問九 おおむねよくできていました。ウは問題文7ページ2行目に書かれている内容になります。